

核医学検査

脳血流 SPECT

脳の局所血流を画像化し血流量を測定します。血流画像は SPECT という方法で CT や MRI と同じように断層表示します。種々の疾患が対象となりますが、最近では認知症の診断にも用いられており、アルツハイマー型認知症とレビー小体病、前頭側頭型認知症の鑑別に役立ちます。脳血流を健常人と比較して異常な部位と程度を客観的に検出する方法なども用いて診断しています。

脳 DAT スキャン

パーキンソン病やレビー小体病では、線条体のドパミン神経が障害されドパミントランスポーターが減少します。それを検出して、パーキンソニズムの鑑別診断やレビー小体病の診断に役立ちます。

心筋血流 SPECT

狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患や心筋症などの診断と治療方針に役立てています。虚血性心疾患の場合には運動や薬剤による負荷をかけて心筋血流を評価する負荷心筋 SPECT が適していますが、その場合には内科（循環器科）にご紹介下さい。

心筋 MIBG SPECT（交感神経の評価）

心筋の交感神経機能を画像化する核医学検査はパーキンソン病やレビー小体病の診断に役立ちます。

心筋 BMIPP SPECT（脂肪酸代謝）

心筋の脂肪酸代謝を見る核医学検査は、負荷をかけずに虚血性心疾患の評価ができます。

骨シンチグラフィ

骨転移の診断に用いられます。疲労骨折などの診断にも役立ちます。

腎シンチグラフィ

腎臓の機能を診断する検査で、両側の腎臓の機能を個別に評価できるのが特徴です。結果は画像と定量値（糸球体濾過量、腎血漿流量）およびレノグラムで得られます。

肺換気血流シンチグラフィ

肺塞栓症の診断に有用で、CT で肺動脈の血栓が検出できない場合でも診断できることがあります。肺気腫などの評価にも役立ちます。

腫瘍・炎症シンチグラフィ

ガリウム (Ga) シンチグラフィは、悪性リンパ腫など悪性腫瘍の他、間質性肺炎、膿瘍やサルコイドーシスなどの診断に用いられます。必要に応じてタリウム (Tl) などの薬剤による検査も行っています。

甲状腺シンチグラフィ

バセドウ病の診断や亜急性甲状腺炎との鑑別診断などに I-123 (ヨード 123) や Tc-99m (テクネチウム) によるシンチグラフィを行います。甲状腺腫瘍の診断にも用いられます。

副腎シンチグラフィ

褐色細胞腫やクッシング症候群など副腎腫瘍の診断に用いられます。

※この他にもいくつかの核医学検査を実施しています。